

科目名	卒業研究ゼミ 1 (卒業必修)		
授業形態	演習	学年	1
開講時期	2023 年度 後期	単位数	1
担当教員	平澤 賢一		
内容および計画	<p><b>【内容】</b></p> <p>(1) ゼミの研究分野 (経営学) 主に企業を対象として、「マネジメント」の諸問題について実態調査を交えて研究を進める。マネジメントの諸問題として、「グローバルマネジメント」「組織管理」「経営管理」「人事管理」「ダイバーシティ&amp;インクルージョン」などが含まれる。</p> <p>(2) ゼミの研究対象 これまでの卒業研究では、大企業だけではなく、中小企業 (地元企業) も研究対象として来た。また、企業に限らず、県立病院、高等支援学校、技術者、看護師を対象としたこともある。</p> <p><b>【1年次の計画】</b> 学生の意向も踏まえて目標を設定し、それに伴って計画、実行して行く。 以下、(1)～(5)をPDCAに従って確認の上で、ゼミ生が自主的に進めて行く。</p> <p>(1) 企業が主宰するセミナー参加等を通じて経営学研究の好奇心を育む (2) マネジメントに関する文献を輪読し、企業等への実態調査を目指す ・マネジメントの基礎理論を学ぶために輪読をし、ゼミ生による報告とディスカッションを行う (3) 企業等への実態調査の準備と実施 (4) 都内他で開催される講演会・シンポジウム・企業イベントへの参加 (希望者のみ。オンライン参加も含む) (5) 卒研の仮テーマを設定し、手当たり次第に文献収集を試みる (=文献の「やみくも」収集) ・書籍や専門雑誌等の文献に触れ、卒研テーマの方向性を探る契機とする ・文献の「やみくも」収集から、参考文献を元とした「いもづる」方式を目指す</p> <p><b>【卒研ゼミでの実態調査】</b> 本ゼミでは、毎年多くの企業・商店・研究施設・研究者・卒業生の皆様にアンケートやヒアリングにご協力いただいて来た。(コロナ禍前は)会津若松市内に限らず、都内・横浜市・福島市・仙台市・石巻市・京都市・大阪市等にも赴いて企業等インタビューやセミナーへの参加をした。ときに遠征先で他大学との合同ゼミを通じて見聞を広げる機会も得たので今後も実施したい。</p> <p><b>【卒業論文のこと】</b> 卒業研究では、机上論に留まることないように、企業の実態を見聞するために実態調査を実施する。本学科の卒業要件は「卒研要旨」の完成にあり、「卒業論文」までの作成は求められていない。しかし、企業等の皆様にインタビュー調査・質問票調査でお世話になった場合には、卒業論文を作成し、御礼状とともに (卒論を) お届けすることを義務付ける。ゼミ生は、卒業研究の調査等でお世話になった方々が、卒論完成を期待してご協力下さっていることを念頭に取り組まなければならない。また、ご多忙のところ、卒業研究の調査にご協力戴いた皆様への感謝の念を忘れてはならない。</p> <p><b>【これまでの主な卒業研究テーマ】</b> 『エンタメ企業の生き残り戦略：HYBE JAPA のケースに基づいて』 『育児期間における看護師の職務継続意欲増加のための養育支援』 『会津地域の文化・風土と企業の文化・風土の関連性』 『精神障害者雇用における企業と外部機関の連携』 『LGBT 施策を実施する企業の業績比較：アライ活動の有無に着目して』 『企業におけるテレワーク定着要因：カルビーの事例から』(日本テレワーク学会で報告) 『上場企業 IR 部門の役割：コーポレートガバナンス・コード導入を踏まえて』 『企業における女性の活躍推進：トップとミドルの役割』 『障害のある生徒への一般就労支援：特別支援学校高等部を事例として』 『企業における障害者雇用の実践モデル』 『老舗企業に学ぶ企業存続条件：風評被害に直面する企業を事例として』 『福島県立病院の経営改革：全国公立病院の黒字経営を比較検証して』 『コンビニエンスストアにおける権限委譲』 『自律型人材の育成』 『技術者の能力開発：情報サービス産業を事例として』 『経営戦略としてのワーク・ライフ・バランス』 『主婦パートの人材戦略化』 『顧客の心を掴む店づくり：飲食店を事例として』 『変革期に求められるリーダーシップとは：キヤノン事例として』</p>		

1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【約束事】初回に本ゼミの「約束事」を配布し、ゼミ活動の指針を確認する。</li> <li>・【計画の確認】学生の意向も踏まえて目標を設定し、それに伴って計画、実行して行く。</li> </ul> <p>○注意事項○</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「なぜだろう」という知的的好奇心と探求心を常にもち、それをとことん考え抜き、自ら能動的に突き詰めていくことを習慣付けたい。</li> <li>2. 「唯一の解」を教えてもらおうとするのではなく、「学び方を学ぶ」ことが重要。</li> <li>3. 卒業までに学んで戴きたいこと。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①与えられた問題の解を出すばかりではなく、自ら問題を設定してその解を導き出すこと</li> <li>②世の中の多くの課題には、唯一絶対の正解がある訳ではなく、複数の解があり得ること</li> </ul> </li> </ol>
2	<p>学生の意向も踏まえて目標を設定し、それに伴って計画、実行して行く。</p> <p>「内容と計画」に示した【1年次の計画】(学生の意向も踏まえて計画)を、(1)～(5)に従って実施し。PDCAに従って進捗度合いを確認の上で、ゼミ生が自主的に進めて行く。</p>
3	以下、15回まで同上。
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

#### 教科書

タイトル	著者名	出版社	ISBN	発行年

- ・指定する教科書はない。但し、参考文献等は適宜、多数紹介する。
- ・研究室にある図書、雑誌は、例年貸し出して来たので活用して戴きたい。

#### 参考書

適宜紹介する。また、研究室内蔵書の貸し出しも例年続けているので活用されたい。

#### 成績評価

評価方法	割合(%)
ゼミ報告(プレゼン・報告資料)	40
ゼミ活動への取り組み姿勢(積極性・貢献度)	20
課題(or 卒研)への取組	40

#### 学習到達目標

社会の第一線での活躍が期待される人として求められる「マナー、心構え、学び方」を学び、身に付けられ

	<p>るようになる。</p> <p>具体的には、</p> <p>①日常生活における挨拶をきちんと出来るようになる。</p> <p>②何事にも知的好奇心を以て取り組むことができる。</p> <p>③日経新聞や専門ジャーナルに目を通す習慣を身に付けることができる。</p> <p>④論理的な文章を書くための基本事項を習得する。</p> <p>⑤自分の頭で考え、それを論理的に表現しようと努力できるようになる。</p> <p>⑥礼状・封筒宛名をきちんと書き、お届けできるようになる。</p> <p>⑦恩義を受けた方に対し「裏切らない」「嘘をつかない」「礼節をもって誠実に接する」こと。</p>
先修条件	経営学・会計学・統計学に関わる科目の受講が好ましい。
実務経験	実務経験有り：外資系企業（米銀・コンサルティングファーム）にて、現業部門管理者としての実務経験を有する。実務経験からの知見も交えて演習指導を行う。
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミのモットー：「愉快地、されど真摯に」</li> <li>・ゼミの標語：'A desk is a dangerous place from which to watch the world.'</li> <li>・ゼミ活動は、自分を高めるべく精進をする「場」であると思って戴きたい。</li> <li>・自主性・積極性・旺盛な知的好奇心をもって取り組んで戴きたい。</li> <li>・また、自分が短大に進学し、勉強できる環境にいることの有難さをじっくりと考えて戴きたい。</li> <li>・卒研等で恩義を受けた方に対し「裏切る」「嘘をつく」「非礼な行動をする」ことは厳禁とする。</li> </ul>